

# ニュースクリップ & 映像教材

■「教育改革のための重点行動計画」発表

■平成17年度「コミュニティ・スクール推進フォーラム」開催

■「映画テレビ技術2006」開催

■第11回「広島国際アニメーションフェスティバル」応募作品募集

## 文部科学省情報

### ■「教育改革のための重点行動計画」発表

文部科学省では、このたび「教育改革のための重点行動計画」をとりまとめた。

昨年10月26日に中央教育審議会からの「新しい時代の義務教育を創造する」の答申、ならびに義務教育の構造改革の方向性についての提言を受け、「国際社会の中で活躍できる心豊かでたくましい人づくり」を目指し、「どの子どもにも豊かな教育を」と与えられるようにすることを理念として、今後重点的に取り組むべき関連施策を「重点行動計画」としてとりまとめた。

主な点は、まず、「新しい時代の義務教育の創造」について、昨年10月の中央教育審議会答申を踏まえ、具体的な取り組みとそのスケジュールがとりまと

められた。今後、これに沿って、学習指導要領の見直しなど必要な制度改正や事業の推進等が図られることになる。

次に、「活力ある人材を育てるための教育の充実」を図るため、①学習指導要領の見直しなどを通じて、子どもたちの学ぶ意欲や好奇心を育成していくなど確かな学力の向上、②近年大きな社会問題となっている、いわゆる「キレる」言動など子どもの情動面や心の問題に対応するための方策の検討や、学校・家庭・関係機関の連携による不登校への対応など豊かな心の育成、③子どもたちの体力の向上や食育の推進など健やかな体の育成、④キャリア教育やニート等を対象とした「学び直し」の機会の提供など、自立し挑戦する若者の育成の4点に重点を置いて取り組むことである。

次に「充実した教育を支える環

境の整備」として、①安全・安心な学校・地域づくり、②ICT利活用による教育・学習の推進、③教育費負担の在り方の検討に重点的に取り組むとしている。

安全・安心な学校・地域づくりについては、学校や通学路において大変痛ましい事件が続発していることを重く受け止め、「子ども安心プロジェクト」を推進し、安全・安心の確保に万全を期するとある。

また、ICT利活用による教育・学習の推進については、世界最高水準のICT国家を支える「人づくり」という観点から、学校におけるICT環境の整備等を「加速化」させるため、地方公共団体に働きかけるほか、本年3月を「教育の情報化月間」としてICT利活用促進キャンペーン等が実施される。

さらに、教育費負担の在り方の検討については、少子化対策

の観点を含め、就学前から社会人になるまでの各段階における教育費負担の実態を、社会全体の状況等を踏まえて、詳細に把握し、課題を明らかにした上で、その対策について、検討を進めていくとのことである。

さらに、家庭・地域の教育力の向上については、子どもの基本的な生活習慣の育成支援を行うため、PTA等民間団体と連携して「早寝早起き朝ごはん」運動を全国展開するとともに、地域における子どもの居場所づくり等をさらに推進していきたいとしている。

なお、これらの具体的な取り組みとあわせて、「公共の精神」や「生涯学習」など新しい時代の教育理念の明確化とその実現に向けた施策の体系化を図るため、教育基本法の改正と教育振興基本計画の策定に向け、しっかりと取り組んでいくとのことである。

行動計画の詳細等については、文部科学省のホームページを参照。<http://www.mext.go.jp/>

### ■平成17年度「コミュニティ・スクール推進フォーラム」開催

文部科学省では、平成16年9月に創設された学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の普及啓発を図るため、推進フォーラムを開催する。

当フォーラムにおいては、行政説明、基調講演やパネルディスカッション、コミュニティ・スクールの指定校および推進事業実施校による実践発表や関係者による意見交換が行われ、制度の普及・啓発を図るとともに、調査研究の成果の発信、効果的な取り組みについて協議が行われる。

〈開催期日および会場〉

①福岡会場：平成18年2月6日

(月)／電気ビル別館電気ホール(福岡市中央区渡辺通2-1-82)  
②名古屋会場：平成18年2月9日(木)／テレビアホール(名古屋市東区東桜1-14-25)

開催内容ならびに参加申し込み等については、文部科学省ホームページにて。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/s-hotou/community/](http://www.mext.go.jp/a_menu/s-hotou/community/)

## AV情報

### ■「映画テレビ技術2006」開催

(社)日本映画テレビ技術協会では、「無限の可能性はここに！プロ技術の祭典」をキーワードに、ますます進化を遂げる制作技術とニーズ、特に政府省庁の映像コンテンツの施策と合わせ、特異性のあるイベントとして「映画テレビ技術2006」を開催する。

〈会期〉

平成18年6月6日(火)～8日(木)

〈会場〉

東京北の丸・科学技術館(東京都千代田区北の丸公園2-1)

〈内容〉

○映像フォーラム(デジタルアニメコレクションセミナーを含む)：映像制作に携わる方々を対象に、時代のニーズにあわせたテーマについて、業界の最前線で活躍するエキスパートを招いて開催する。

○映画カメラ みて、さわれる！：映画の撮影現場で活躍しているカメラを一堂に集め、プロの指導で実際に操作を体験する。

○第2回デジタルコンテンツシンポジウム：映像情報メディア学会他

○ノミの市：映像機器、撮影用小物の販売

〈入場料〉

1,000円

〈問い合わせ先〉

(社)日本映画テレビ技術協会  
〒104-0061東京都中央区銀座2-15-2 東急銀座ビル  
TEL 03-3544-6675  
<http://www.mpte.jp>

## コンクール情報

### ■第11回「広島国際アニメーションフェスティバル」応募作品募集

広島国際アニメーションフェスティバル事務局では、標記フェスティバルを開催するにあたり、応募作品を募集する。

〈開催日程〉

平成18年8月24日(木)～28日(月)

〈応募作品条件〉

①1コマずつ作られた作品であること。ただし、コンピュータによる作品を含む。

②フィルムまたはビデオテープによる作品であること。

③上映時間が30分以内の作品であること。

④平成16年4月1日以後に完成された作品であること。他

〈審査〉

選考審査は平成18年5月10日から行われ、本審査は、同じく8月24日～28日に実施される。

〈賞〉

グランプリ(賞金100万円)、ヒロシマ賞(同100万円)、デビュー賞(同50万円)、木下蓮三賞(同30万円)他

〈応募締め切り〉

平成18年4月1日(土)

〈問い合わせ先〉

広島国際アニメーションフェスティバル事務局  
〒730-0812広島市中区加古町4-17 アステールプラザ内  
TEL 082-245-0245  
<http://www.urban.ne.jp/home/hir-oanim>